

事例6 治山事業における間伐材等の木材利用の推進

(関東森林管理局 福島森林管理署)



- 福島県 福島市（ふくしまし） 会沢（あいざわ）国有林
- 左：間伐材（スギ約 38 m³（製品材積））を使用した校倉式の治山ダムの全景
- 右：施工中の様子

関東森林管理局では、コンクリート構造物を設置する際に間伐材による合板型枠や残置式の丸太型枠を採用するほか、木材を利用可能な箇所は全て木材を使用するなど、木材利用を積極的に推進しています。

福島森林管理署では、福島市の磐梯朝日国立公園内にある会沢国有林における治山ダムの施工に当たり、積極的な木材利用に取り組みました。

具体的には、下流側に温泉地があり周辺景観との調和に配慮する必要があること等から、木材を井の字の形（井桁）に組み、中に石材を充填する構造（校倉式）を採用しました。